

# I 研究の概要

## 1 研究主題

自立と社会参加を目指し、「わかる」、「できる」、「かかわりあう」を大切にした授業づくり

## 2 研究主題設定の理由

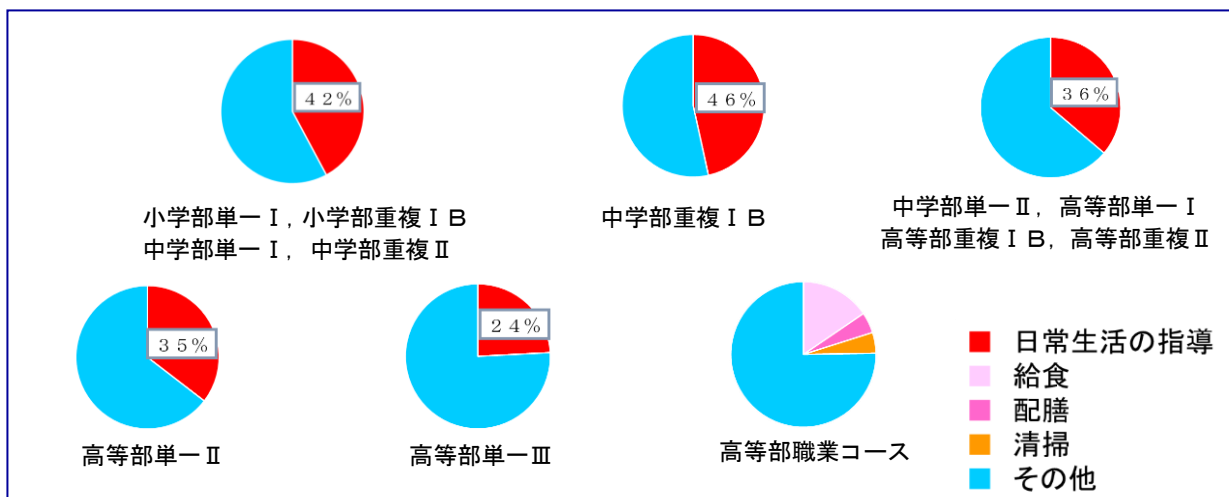
平成25年度より昨年度までの3年間において、本校では体育科・保健体育科の授業づくりに取り組んできた。その中で、環境づくりに視点を当て、教師とのやり取りだけにとらわれず、物とのやり取り、仲間とのやり取りの中で動ける支援を工夫したことで、児童生徒が主体的に活動に取り組む姿や意欲的に活動する姿が様々な場面で見られるようになってきた。児童生徒が自ら動く姿が、運動量の増加や正確さや多様さという動きの幅の広がり、動きの質の向上へとつながった。また、全校において、「授業づくりシート」を活用した授業づくりを進めていくことで、教師間で目指す児童生徒の姿が明確になり、指導目標や指導内容、指導方法の共有化を図ることができた。

今年度は、昨年度までの成果を生かし、さらに実践的に活用していくことを課題とし、研究の方向性を探っていった。

本校は、平成24年に高等部に職業コースが新設され、比較的軽度とされる生徒から、医療的ケアの必要な、いわゆる重度・重複障害のある児童生徒まで、幅広い実態の児童生徒が在籍している。児童生徒の発達段階や将来目指していく姿によって、教育課程を六つの類型に分け、実態や課題に合わせた指導を行っている。教育課程において、学部や類型によって日常生活の指導の時間は異なるが、表1に示すように、およそ1/4から1/2近くを占めている。類型によっては、割合が少ない類型や扱っていない類型があるが、給食や掃除など日常生活における指導は、どの類型も同様に行っている。このように本校では、基本的な生活習慣を身に付けることから、将来の職業生活へとつなげるための基礎となる力を付けることまで、児童生徒の実態に合わせて系統的に指導を行い、日常生活における指導の充実を図っていくことを大切にしている。しかし、毎日繰り返し行う活動であることから、形骸化も生じやすく、指導内容に変化があまり見られなかったり、指導の工夫や改善が進まず、指導が単調になってしまったりすることがあった。

また、日常生活の指導は学級単位で行うことが多く、他学年はもちろん、学年内であっても学級が違えば、どのように取り組んでいるのか分からないということも多く、取組の共有化を図ることが難しいという課題があった。そこで、今年度からの3年間において、日常生活における指導の充実を図るために、授業づくりを通して研究を進めていくこととした。

【表1 本校の教育課程（指導形態）における日常生活における指導の指導時間割合（一部抜粋）】

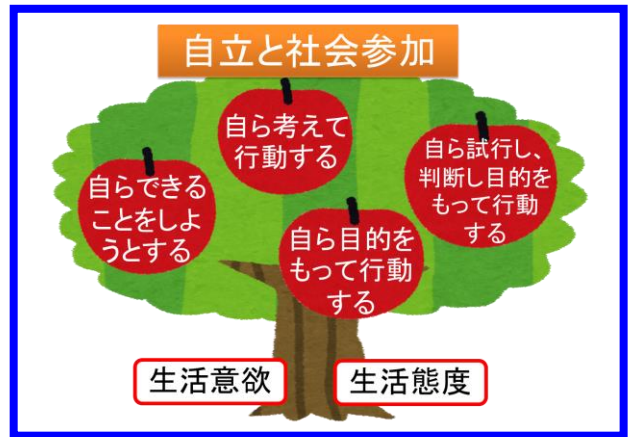


「日常生活の指導の手引き」によると、日常生活の指導は、日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するものであり、身辺生活の処理に関わる技能を高めることに留まらず、日常生活をより自立的、発展的に行うための生活意欲や生活態度を育てることとあり、生活意欲と生活態度を育てることが、自立と社会参加を目指す上で大切なことであると考えます。

本校の学校教育目標にもある、自立と社会参加を目指すためには、日常生活の指導において生活意欲と生活態度を育てることが、日常生活を自立的、発展的に行うこと、つまり、主体性をもって豊かに生きることへとつながると考える。児童生徒の生活意欲と生活態度を育て、受身的な生活から、自らする生活へと変えていくことが、自立と社会参加へとつながることであり、自らできることをしようとする、自ら考えて行動をする、自ら目的をもって行動する、自ら思考し、判断し、目的をもって行動するという、児童生徒の姿となって表れてほしいと考えている。(図1)

そのためには、児童生徒自身が、「わかった」「できた」と実感できることが大切であると考え、昨年度まで体育科・保健体育科の授業づくりにおいて取り組んできた支援環境を整理すること、つまり環境づくりに視点を当てて、児童生徒が「わかる」、「できる」授業づくりを、日常生活の指導において取り組もうと考えた。

本研究は、3年計画で行い、1年次である今年度は、「わかる」、「できる」日常生活における指導を副題として授業づくりに取り組み、次年次以降は、人とのかかわりの中で主体的な活動に取り組むことを目指す「かかわりあう」日常生活における指導に取り組むこととした。なお、前述したように本校では教育課程上日常生活の指導を扱わない類型があるため、研究副題を日常生活における指導とすることとした。



【図1 自立と社会参加を目指した児童生徒の姿】

【表2 研究計画】

自立と社会参加を目指し、「わかる」、「できる」、「かかわりあう」を大切にした授業づくり	
平成28年度（1年次）	「わかる」、「できる」日常生活における指導
平成29年度（2年次）	「かかわりあう」日常生活における指導
平成30年度（3年次）	「わかる」、「できる」、「かかわりあう」日常生活における指導